

に要望していきます。

十日神楽線については、危険な箇所があることも認識しています。集落から五月橋の間は工事用車両が利用するので、幅員5メートルの道路を国土交通省にお願いしてあります。道渡から集落までの危険箇所についても、大型工事車両が通行するため、補強しなければならぬ箇所がいくつもあります。こうした将来を見据えて国土交通省に交渉していきたい。

問 小判田・鷲ヶ峰トンネルを結ぶ新設道路は、今後、どのように進められるのか。第4次八百津町総合計画期間内には方向性が示されるのか。

答 (赤塚町長) 第4次八百津町総合計画は、平成28年度が最終年度となっています。この新設道路は、要望もいただいております、重く受け止めています。年度は申し上げられませんが、早急に詳細設計にとりかかなければならないと思っています。平成22年、23年の災害復旧工事も残っており、それらの予算等も考慮し、前向きに検討していきたいと思えます。

加藤 良治 議員

Q1 大規模地震対策について

想定される被害や取組みは？

問 東海、東南海、南海トラフ大規模地震又は内陸直下型地震等、同時に多発する災害への応急体制の再構築は急務である。次の3点について伺う。

- 1 大規模地震での八百津町における被害想定
- 2 これまでに実施してきた取り組みの概要
- 3 平成25年度予算における取り組みについて

答 (飯田参事) 調査結果によれば、南海トラフ巨大地震における被害想定としては、最大震度は6弱、全倒壊棟数50棟、半壊棟数538棟、人的被害は死者数2名、負傷者数107名、建物被害及び焼失による避難者数301名となっています。

次に内陸直下型地震による被害想定ですが、最大震度5強、全倒壊棟数1棟、半壊棟数117棟、死者数0、負傷者数23名、建物被害及び焼失による避難者数56名となっています。このことから、当町への被害がもっとも甚大と予想される地震は、南海トラフ巨大地震であるとわかっています。

当町が対策として実施してきた取組み、平成25年度における取組みですが、ソフト事業、ハード事業において、防災安全室、建設課、健康福祉課でそれぞれ取組まれております。

防災安全室では、自発的な防災活動の推進として、八百津町

地震防災マップを全戸に配布、モデル自主防災組織活動支援事業の実施、防災士資格取得者への助成、防災センターの建設及び災害対策本部の組織及び運営の見直し、情報体制の確立として、JAIBERTの自動放送への対応、情報の収集・伝達方法の多様化を図るため、携帯電話事業者とのエリアメール配信契約、防災行政無線の維持管理、衛星電話の整備、防災資機材の確保として、各地区に防災倉庫及び防災、救助活動資機材の整備、食料品の備蓄、応援態勢の確立として、各民間事業者との支援・応援協定の締結等、現地点できさうの対策を講じてまいりましたが、今回発表された南海トラフ巨大地震の被害想定を受け、その対策が急務の課題であり、現在作業を進めている地域防災計画にその対策を反映していきたいと考えています。

また、平成25年度における取組みについては次のとおりです。巨大地震等の大規模災害が発生した場合、住民による初期対応、自主防災組織の活動が重要となつてきます。しかし、平成25年2月現在における自主防災組織は79自治会のうち73自治会で組織され、6自治会が未組織となっています。また、自主防災組織設置自治会73自治会のうち、

モデル自主防災組織活動支援事業の助成を受けて活動を行った組織数は、22自治会となっています。防災士の資格取得助成は、1名のみにとどまっています。平成25年度予算では、自主防災組織未設置の自治会の組織化はもとより、組織の活性化に向け、「八百津町防災リーダー養成講座」を開催します。多くの防災リーダーを養成することにより、地域防災の要となる自主防災組織の重要性への意識の高まりが期待され、自主防災組織のさらなる活性化が図られるものと考えています。

その他にも、給水タンク積載用トラックの購入、防災行政無線の改修工事、アルファ米や防災対策用備品の購入も予算計上しております。

建設課関係では、土砂災害ハザードマップの配布があります。従来は、行政で作成したハザードマップでしたが、今回は、町民の方にワークショップという形でご参加いただき、地域の方だからわかる危険な情報、避難しやすい場所、避難しやすいルートを示した実用的なマップを作成し、昨年7月に八百津町全戸に配布しました。今後は、大規模崩壊、地滑り等の危険箇所を記載し、地域に即したハザードマップを検討していきたいと考えています。

当町の耐震診断事業について

は、平成18年度の制度発足以来、

広報、ホームページでその制度の結果、平成24年度までに58戸の方々が耐震診断を受けています。耐震診断の結果、平成24年度までに9戸の方々が耐震補強工事を行っておられます。平成25年度におきましても、耐震診断事業及び耐震補強工事に関する予算を計上しております。

橋梁の耐震補強工事については、国道418号、主要地方道多治見・白川線、県道野上・古井線の荒川橋、高橋、八百津橋等については、すでに耐震補強工事が終わっております。その他の県管理の橋梁についても、交通量の多い路線から補強工事が進んでいます。

町管理の橋梁については、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、12橋を10カ年で補修する計画を立て、すでに2つの橋が完了し、平成25年度も高砂橋・味屋橋を修繕予定であります。しかし、この補修は、長寿命化の補修であり、耐震補強工事は含んでおりません。

今後、補修が必要であり、かつ長大橋であります、稲葉橋、木野橋等につきましては、補修時に耐震補強工事も同時施工できるように関係機関と調整していきたいと考えております。農業用ため池については、八百津町地域防災計画に記載のあ